

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 30 年度 前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	室 龍之介	会員番号	0033417	
申請者の所属・職名	東京大学大学院医学系研究科 免疫学			
出席会議名	Gamma Delta Conference 2018			
発表論文タイトル	Proinflammatory $\gamma\delta$ T cell development by Syk/PI3K-mediated TCR signal transduction			

実施結果:

この度は、平成 30 年度前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award を賜り、誠にありがとうございました。岸本忠三先生、選考員の先生方ならびにご推薦をいただいた高柳広先生に厚く御礼申し上げます。

私は 2018 年 6 月 7-10 日にフランス、ボルドーで開催された Gamma delta T cell conference 2018 に参加させていただきました。本学会の基軸である $\gamma\delta$ T 細胞は免疫細胞の中でもとりわけ研究が遅れていますが、近年、 $\gamma\delta$ T 細胞が持つ固有の機能や特性が次々と明らかにされています。本学会はこのような $\gamma\delta$ T 細胞の性質に魅了された世界の研究者が一堂に会し、活発に議論を交わし、交流を広げるエキサイティングな場です。2 年に一度のペースで開催され、今年で 8 回目を迎えます。

本年は、腫瘍免疫、免疫治療、ヒト $\gamma\delta$ T 細胞に関する研究が非常に多く発表され、 $\gamma\delta$ T 細胞による疾患治療技術の開発に大きな期待が寄せられていると感じました。また、 $\gamma\delta$ TCR レパトアの多様性についても関心が集まっており、組織常在型 $\gamma\delta$ T 細胞やウイルス感染時に特異的に検出される $\gamma\delta$ TCR レパトアについて報告がありました。これらの知見は将来的に $\gamma\delta$ T 細胞研究における最大の疑問である $\gamma\delta$ T 細胞のリガンドの同定に繋がると期待され、 $\gamma\delta$ T 細胞による生体恒常性維持システムの解明に大きく寄与すると感じました。

私は、Syk/PI3K を介した TCR シグナルが炎症性 $\gamma\delta$ T 細胞の分化に果たす役割 (Muro et al., J Clin Invest. 2018) について、本学会にて報告しました。実験手技や研究の経緯など世界中の研究者から多くの質問を頂き、研究内容を高く評価して頂きました。特に、Kings college London の Adrian Hayday 教授や Universidade de Lisboa の Bruno Silva-Santos 教授、University of Toronto の Juan Carlos Zuniga-Pflucker 教授らと Discussion し、建設的な意見を頂きました。これは私にとって、本学会における最大のビックイベントとなりました。

ボルドーは街全体が世界遺産として登録され、歴史的情緒あふれる町並みが魅力的です。懇親会では、ボルドーの歴史的景観とガロンヌ川を背にボルドーワインを満喫しつつ、同年代の若手研究者らと意見交換をし、交流を深めることができました。本学会で得た経験を生かし、新しいサイエンスを開拓できるように、一層精進して参ります。

注) 本参加記は手書きでなく、ワープロを使用して作成してください。